

Floating Lanterns　2025年　作家蔵
「神戸六甲ミーツ・アート 2025 beyond」展示風景、風の教会

平櫛田中賞について

平櫛田中賞は、日本近代彫刻界の巨匠・平櫛田中（1872～1979）の意思により、後進の育成と彫刻界の発展を目的として1971年に創設されました。

創設以来、本賞は多くの優れた彫刻家たちに贈られ、日本を代表する彫刻賞として認知されています。現在、井原市が主催し、見識の高い美術評論家、彫刻家たちによって厳正に推薦・選考され、今年で32回目を迎えることとなりました。

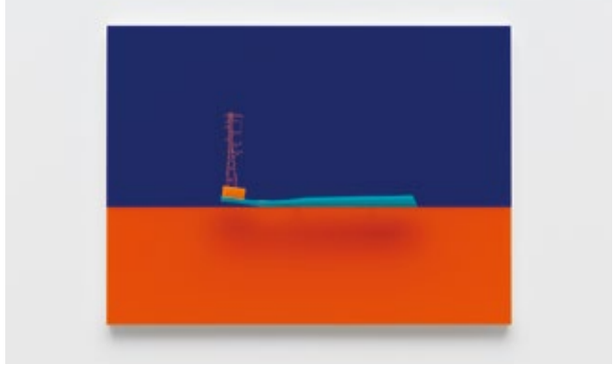
本賞は、現代日本の彫刻界を牽引する彫刻家たちを顕彰するとともに、平櫛田中が彫刻界に遺した大きな足跡を後世に伝える役目をもっています。本賞の存在は、「文化の香り高い町づくり」を市民憲章に掲げた井原市民にとってかけがえのない誇りです。

第32回平櫛田中賞　選考委員 五十音順

海老塚耕一　酒井忠康　土方明司　深井　隆
三沢厚彦　水沢　勉　峯田敏郎　山縣壽夫



アウト・オブ・ディスオーダー（ピンクデッキブラシ）　2013年　撮影：木暮伸也　個人蔵



アウト・オブ・ディスオーダー（薮景）　2022年　撮影：橋本健佑　個人蔵

岩崎貴宏の作品には《リフレクション・モデル》という厳島神社や寺院、羅生門をテーマにしている作品がある。白木の素地で精緻に造形されたそれらは水面や地面に対して下側も存在しており、それらを境に上下の鏡構造として、空間にワイヤーでつられている。

岩崎は厳島神社の鳥居や境内は海の潮の満ち引きにより、顕わになる事もあれば水没しその存在が見えなくもなる。そして、さらには建造物が海面に映し出され上下シンメトリックな像が出現する。これらも非常に興味深い事柄であるが、それらを造る段階から水没し、劣化し、それにより新たに造り直す事柄も必然的な事物として受け入れている伝統に惹かれているのも興味深い。

木造の床は海水により劣化し、腐敗し、切り取られ、そして新たに再生される。

この行為や思考はパラドキシカルな視点として「彫刻」という概念に近しいものであるとは言えないだろうか。「彫る」「刻む」という、ある量から切り取る意味をもつ言語から構成されている。これを行為性に例えるならばやがて物質は消滅するのだろう。しかし、木彫表現は予め用意された素材のマッスや量を鑿や刃物により、切り取り、彫り込み、かたちづくられ、最初のマッスよりも質量は少なくなるが空間や受け手に与える情報は遥かに大きい。

岩崎の作品《アウト・オブ・ディスオーダー》はランドスケープやジオラマも一つのテーマとして認識することができるが、これらは日本人の持つ独自の感性と得意分野であることも事実だ。人形やフィギュア、玩具的なものを愛でる感覚もそうであるが、例えば床の間や棚、アトリエの床の片隅にモチーフが縮小された作品を置く、という事はどうであろう。そして、そのモチーフの意味性も含め、現実世界とは違う次元として、また一つの世界観を構築させる事は出来るだろう。岩崎の作品には《森の仙人》や《夜半翁》に見られる平櫛田中が得意とした手法や表現にシンクロする要素があるとは言えないだろうか。

第32回平櫛田中賞選考委員会
委員　三沢厚彦

井原市立平櫛田中美術館（いばらしりつひらくしでんちゅうびじゅつかん）

〒715-0019 岡山県井原市井原町315
tel 0866-62-8787　fax 0866-62-9567
Eメール：dencyu@city.ibara.lg.jp

ホームページ

〈表紙〉リフレクション・モデル（水中の羅生門）　2023/2024年　作家蔵　撮影：木奥恵三



第32回

平櫛田中賞

受賞者報告

井原市立平櫛田中美術館

第32回平櫛田中賞　受賞者

岩崎　貴宏
IWASAKI　Takahiro

【受賞理由】同時代性を意識した表現と日本文化の独自性を融合した作品世界を展開し、発信していることに対して



【受賞作】
リフレクション・モデル（水中の羅生門）

広島市在住

この度は、栄えある平櫛田中賞をいただき、心より光栄に存じます。選考委員の皆様、そしてこれまで私の挑戦を支えてくださった多くの方々に深く感謝申し上げます。今回、私の代表作である《リフレクション・モデル》を評価していただき、この歴史ある彫刻賞の系譜に名を連ねる機会をいただいたことは、私にとって大きな驚きであり、この上ない喜びです。平櫛田中先生の代表作である《鏡獅子試作裸像》が、研ぎ澄まされた肉体のミクロコスモスに全てのエネルギーを凝縮させた表現とすれば、私の《リフレクション・モデル》は、水面の揺らぎから無限の広がりであるマクロコスモスを1点に収束させた表現と言えます。時代も表現の手法も異なりますが、脈打つ時間を一瞬の物質へと凍結させ、世界の美しさを「鏡」のように映し出すという彫刻の核心において、私は田中先生の精神と深く響き合うことができたのだと、今回の受賞を大変誇りに思っております。



リフレクション・モデル（テセウスの船）　2017 / 2021 年　撮影：来田猛　金沢 21 世紀美術館蔵



テクトニック・モデル（フロー）　2017 年　撮影：木奥恵三
タグチアートコレクション／タグチ現代芸術基金

【略歴】
1975 広島市生まれ
2003 広島市立大学芸術学研究科博士後期課程修了
2005 エジンバラ・カレッジ・オブ・アート大学院修了
2018 第68回芸術選奨文部科学大臣新人賞
　エジンバラ・カレッジ・オブ・アート名誉博士号受位
2023 タカシマヤ美術賞
現在、広島市立大学芸術学部美術学科彫刻専攻准教授

【主な個展】
2024「岩崎貴宏 もし、アップルパイを最初からつくろうと思うなら、君はまず宇宙を作らなきゃ」金津創作の森美術館 アートコア、福井
2023「Takahiro Iwasaki: Nature of Perception」ポートランド日本庭園、ポートランド、アメリカ
2017「ひかりは星からできている」URANO、東京
　「第57回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展 逆さにすれば、森」カステッロ公園内日本館、ヴェネチア、イタリア
2015「岩崎貴宏展 埃（10^{-10}）と刹那（10^{-18}）」小山市車屋美術館、栃木
　「岩崎貴宏展 山も積もればチリとなる」黒部市美術館、富山
　「In Focus」Aron Galleryアジアソサエティ、ニューヨーク、アメリカ
2014「Takahiro Iwasaki: Itsukushima Reflection Model From the NGV Collection」ヴィクトリア国立美術館、メルボルン、オーストラリア

【主なグループ展】
2026「欧州文化首都オウル2026：気候時計」Kirkkosuvanto Beach、オウル、フィンランド
　「Rising Voices: Contemporary Art from Asia, Australia and the Pacific」ヴィクトリア&アルバート博物館、ロンドン、イギリス
2025「Biennale Jogja 18 – KAWRUH: Land of Rooted Practices」Pendhapa Art Space、ジョグジャカルタ、インドネシア
　「神戸六甲ミーツ・アート2025 beyond」風の教会、兵庫
2021「日常のあわい」金沢21世紀美術館、石川
2019「あいちトリエンナーレ2019情の時代」伊藤家住宅、愛知

【主なパブリックコレクション】
カディスト・アート・ファウンデーション（フランス）、ヴィクトリア国立美術館（オーストラリア）、クイーンズランド州立美術館（オーストラリア）、ジャン大公近代美術館（ルクセンブルグ）、M+（香港）、Centre for Heritage, Arts and Textile（香港）、X 美術館（中国）、熊本市現代美術館、金沢21世紀美術館、森美術館、横浜美術館、高松市美術館、国際交流基金、高橋龍太郎コレクション、タグチアートコレクション



アウト・オブ・ディスオーダー（コニーアイランド）　2012 年　個人蔵



リフレクション・モデル　2001 年　撮影：友枝望　森美術館蔵